

(様式4)

令和4年度 富山県立大門高等学校学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

学習活動については、昨年度と同様、1年生全員に1週間の家庭での学習時間が14時間以上になる目標を設定した。日々のきめ細かい指導により、定期考査期間では73%が77%に、4月～12月までの通算では57%が53%となり昨年度とあまり変化が見られなかった。また、学習の理解度が深まったと実感する生徒の割合も55%で、70%以上とする目標に届かなかった。このデータは生徒が1週間分を入力したものだけを使用している。1週間分を入力している生徒は昨年度(1学期は8割程度、2学期は6割未満)よりも減少し、1学期・2学期とも全体の2/3程度だった。データ入力率を高め、全体の傾向を把握する工夫が必要である。

生徒の学校生活に対する満足度は、65.5%が67.6%に、学校行事・生徒会活動に対する満足度は、48.6%が58.6%となりどちらの値も増加した。今年度は、昨年度と違いコロナ禍での行事の実施のために「できること」を考え、積極的な取り組みを行った。また、交通事故・自転車事故の発生件数を「0に近づける」という目標を設定したが、昨年度の事故件数の6件から4件となった。今年度も交通安全教室を開催できず、自転車の安全な走行ルールと事故防止の徹底を十分に図ることができなかった。

進路支援については、1・2年次における進路目標の明確化を図るため、キャリア教育を充実させた。1学年では志望分野、2学年では志望校の決定率をそれぞれ70%に設定した。結果は「志望分野決定率」43%、「志望校の決定率」60%となり、目標値に到達できなかったが2学年では値が増加した。これは、学年が進路研修旅行や講演会、体験学習等の機会を利用して、主体的に進路志望を明確化する機会を設けたことが影響している。また、3年次の進路志望の実現達成度(進路決定者の割合)は98%となった。今年度も、国公立大学に限らず生徒を主体とした進路指導に加え、全校体制で共通理解を図りながら合格に向けた指導を徹底した。

地域との連携推進と部活動の充実については、地域での活動(行事等)への参加生徒の割合を60%以上に設定したが、53.7%にとどまった。生徒会執行部と地域ボランティア委員会で清掃活動を企画した他は実施できなかった。また、部活動では加入率と満足度の目標を80%以上に設定した。加入率は94.7%に、満足度は82.1%となった。新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に弱くなり、部活動の制限もなくなり始めたことが目標の達成に繋がった。

情報教育の推進では、情報発信に取り組む機会を増やし、適切な方法で情報活用スキルを身につけさせる目標を設定し、1年生は進路探究レポートの作成と班別発表、2年生はテーマ別学習のレポート作成とプレゼンテーションを実施した。教師の取り組みとして、生徒の個別最適化学習を実現するデジタル教材の効果的な使用法の研修を行った。また、各教科でタブレットPCを使用する授業を参観する機会を設けたことで効果的な活用が促進された。

7 次年度へ向けての課題と方策

次年度も教育用クラウドサービスによる学習過程での振り返りやその評価、さらには「生活の記録」を活用した学習時間の点検や実態把握をしながら、生徒一人一人の学力や生活状況に応じた指導・助言による効果を検証し、生徒が主体的自己調整の学習に取り組めるシステムを築きあげていきたい。また、生徒のより確かな実態を掌握できるようにするため、調査方法の工夫など内容も検討し実態に即した情報を取得できるように努めたい。

本校は、昨年度「大門高等学校グランドデザイン」を策定し、特色ある教育活動(カリキュラム・ポリシー)として4つの柱を掲げた。次年度は、生徒の学校生活と特別活動全体を通して、生徒が主体的に活動の出来る場面を多く設定するなど、より積極的な支援をすることで目的とする生徒の資質能力の伸長を図る。特に「地域」と「情報」の連携を図ることで地域の課題解決に貢献したり、「環境」と「国際」の連携を図ることでグローバル人材の育成を図りたい。

進路指導では、早期からキャリア教育に取り組み、生徒の進路意識の高揚に努める。また、定期的に生徒による自己評価である大門高校 GP(Graduation Policy)を行い、キャリア形成を図り進路実現への支援を行いたい。

本校では、生徒一人一台タブレットPCによりオンライン授業を含め、タブレットPCの用途が大きく広がり、教育活動全般に利用されている。今後は、さらに多くの場面で有効に活用していただけるよう生徒や教員のICT活用能力をさらに発展・向上させることで、生徒の学習意欲を高め、学力向上を図る環境づくりを推進していきたい。